[成果情報名]ブドウ「BK シードレス」における台木「イブリット・フラン」の利用が果実品質と収量に及ぼす影響

[要約]ブドウ「BK シードレス」は、台木に「イブリット・フラン」を利用した方が「テレキ 5BB」を利用するよりも糖度が高く、酸含量は低い。また、果房重、果粒重が大きく、収量は高い傾向にある。

[キーワード]ブドウ、「BK シードレス」、台木、「イブリット・フラン」、果実品質

[担当]宮崎県総合農業試験場・果樹部

[代表連絡先]電話 0985-73-2121

[分類]研究成果情報

[背景・ねらい]

九州大学によって育成された黒系ブドウ品種の「BK シードレス」（マスカットベーリーA×巨峰）は、本県でも導入され始めているが、品種特性に適する台木は明らかになっていない。そこで、一般的に利用される「テレキ 5BB」（以下、テレキ台）と強勢台木の「イブリット・フラン」（以下、フラン台）を用いて、「BK シードレス」の果実品質及び収量を確認する。

[成果の内容・特徴]

１．「BK シードレス」において、フラン台はテレキ台よりも糖度が高く、酸含量は低い（表 1）。

２．「BK シードレス」において、フラン台はテレキ台よりも果房重、果粒重が大きいため、収量が高い傾向にある（表 1、表 2）。

３．2021 年 11 月の時点で「BK シードレス」のフラン台とテレキ台の幹周は、穂木部、台木部ともに差はなく、台負けしている（表 3）。

[成果の活用面・留意点]

１．農業試験場内（宮崎市佐土原町）の露地雨よけトンネル圃場（黒ボク土）に植栽された 2018 年で 5 年生　一文字整枝　短梢剪定栽培の樹を 2 樹ずつ用いた結果である。 また、定植後の肥培管理等はテレキ台、フラン台ともに同様である。

２．満開期から 3～5 日後に、ジベレリン 100ppm 溶液に果房浸漬処理を 1 回行った。花穂整形は、開花始期に先端を切除し、7～8 段を残した。摘粒は、2018 年から 2020 年は行っているが、2021 年はほとんど行っていない。

３．供試樹は、2015 年に九州大学から、試験用として分譲されたものである。

［具体的データ］

表１　異なる台木が「BK シードレス」の果実品質に及ぼす影響

年度	台木	満開日	果房重（ｇ）	粒数	果粒重（ｇ）	果皮色[z]（c.c.）	糖度（%）	酸含量（g/100ml）	収穫日
2018	フラン台	5月18日	429.2	39.2	10.9	5.7	20.0	0.40	9月4日
	テレキ台	5月18日	403.1	38.5	10.9	4.5	19.1	0.39	
2019	フラン台	5月10日	494.8	36.9	13.4	5.3	18.9	0.41	8月27日
	テレキ台	5月10日	431.0	35.9	12.2	5.7	18.3	0.46	
2020	フラン台	5月16日	407.1	34.5	11.8	6.5	22.1	0.50	8月26日
	テレキ台	5月16日	403.1	35.5	11.3	6.6	20.7	0.55	
2021	フラン台	5月7日	534.1	42.5	12.7	6.2	18.2	0.42	8月24日
	テレキ台	5月7日	455.0	41.9	11.0	5.0	17.6	0.46	
有意性[y]	年次	-	＊＊	-	＊	＊	＊＊	＊	-
	台木	-	＊＊	-	＊	n.s.	＊＊	＊＊	-
	年次×台木（相互作用）	-	＊	-	n.s.	n.s.	n.s.	n.s.	-

注）2018,2020年は１樹5房、2019年は1樹9房、2021年は1樹10房を調査した

z：緑(0)～紫黒(12)、果実カラーチャート（農林水産省1975）

y：年次と台木間の二元配置分散分析により、＊は5%水準、＊＊は1%水準で有意差があることを示し、n.s.は有意差なし

表２　異なる台木が「BK シードレス」の収量に及ぼす影響

年度	台木	樹冠面積（㎡）	着房数（１樹あたり）	着房数（房／㎡）	果房重[z]（ｇ）	収量[y]（kg/10a）
2020	フラン台	20.4	65.0	3.2	344.5	1098
	テレキ台	20.1	58.5	2.9	302.3	881
2021	フラン台	20.4	67.0	3.3	497.2	1633
	テレキ台	20.1	66.5	3.3	450.2	1491

z：全果房調査

y：樹冠面積当たりの収穫重から換算

表３　異なる台木における「BK シードレス」の幹周（2021 年）

台木	穂木部[z]（ｃｍ）	台木部[y]（ｃｍ）
フラン台	28.4	26.0
テレキ台	28.8	24.8

注）調査日11月29日

z：接ぎ木部より10cm上部で測定

y：接ぎ木部より5cm下部で測定

（松浦　祥太）

［その他］

予算区分：県単

研究期間：2018～2021 年度

研究担当者：松浦祥太、城戸皓大、栗野太貴、宮廻京平（宮崎総農試）

発表論文等：なし